

令和2年度九州大学法科大学院入学者選抜試験

試験問題

論文試験

(注意事項)

- 1 本試験問題は指示があるまで開かないこと。
- 2 本試験問題は（この表紙と白紙を除き）11頁、解答紙は2枚である。「始め」の合図があったら、それぞれ確認し、解答紙のすべてに受験番号を記入すること。
- 3 解答文は横書きとし、所定の解答欄に記入すること。
- 4 論文試験の筆記具は、B又はHBの鉛筆又はシャープペンシルを使用することとし、それに従わない答案は採点しないことがある。
- 5 ラインマーカー及び色鉛筆の使用は、問題検討のために、問題用紙及び答案構成用の下書き用紙に限り許可する。
- 6 採点は45点（30%）を最低合格ラインとして設定する。

I 次の文章をよく読んで、問(1)・(2)に答えなさい。

【出典】小熊英二『日本社会のしくみ』（講談社現代新書、2019年）553頁 - 579頁
なお、問題の作成にあたり、原点の文章を一部加工している。

問(1) 日本の労働慣行の特徴およびその形成経緯・長所・短所について、筆者はどのように考えているか。アメリカのそれと対比しながら、300字以内で説明しなさい。

(30点)

問(2) 下線部の問いについて、問題文で示された「回答①」～「回答③」のうち、あなたが最も望ましいと考えるのはどれか。本文の見解を踏まえ、選んだ回答を支持する論拠および選ばなかった回答の問題点を示した上、450字以内で論じなさい。

(45点)

II 次の文章をよく読んで、問(1)・(2)に答えなさい。

【出典】ネルソン・グッドマン（著）・戸澤義夫＝松永伸司（訳）『芸術の言語』（慶應義塾大学出版、2017年）7-13頁

なお、問題の作成に当たり、原典の文章を一部加工している。

問(1) 下線部①「指示 denotationこそが再現の核をなすものであり、そしてそれは類似とは無関係に成り立つものである。」とは、どのようなことか。本文で用いられている以外の具体例を挙げつつ、350字以内で説明しなさい。

(35点)

問(2) 下線部②「なんらかの対象を再現するとき、われわれはそうした解釈をコピーしているのではない。むしろそれを実現しているのである。」と筆者がいうのはなぜか。再現のコピー説の問題点を指摘しつつ、400字以内で論じなさい。

(40点)